

デジタルドキュメント(3)

高久 雅生

2014年5月1日(木)3・4時限

本日のお品書き

- 第1回レポート課題の返却と講評
- 質問・要望へのお答え
- 前回の復習
- 学術分野のデジタルドキュメント(続き)
 - 学術論文の構造
 - 学術論文のプラットフォーム
 - 実例を交えて
- まとめ
- 第2回レポート課題

質問・要望へのお返事 (1)

- 第1回課題を提出できなかつたのだが...。遅れ提出は可能か?

遅れ提出を認めますので、可及的速やかに提出してください。7D208研究室前に提出用の封筒を用意してあるので、そこに提出してください。

※なお、提出の無い場合は単位を放棄したものとみなします。

質問・要望へのお返事 (2)

- レポートの返却や評価結果の告知はありますか?

最終レポートを除き、返却と講評は毎回、行います。

質問・要望へのお返事 (3)

- 論文などの元は紙データのものをスキャンなどし、キーワードを検索する技術などはあるのですか？

OCR (Optical Character Recognition) と呼ばれる技術により、スキャン画像から機械的に文字を認識することができ、市販のソフトウェア等で簡単に実現できる。OCRによる文字認識は Google Books プロジェクトをはじめ、多くの実用サービスでも活用されている。

そのほか、CiNii Articles の全文検索機能や国立国会図書館による報告等を参照のこと。

質問・要望へのお返事 (4)

- 電子ジャーナルの利用の浸透度についての話で、分野によって利用度に偏りがあるのが印象的だった。
- 人文系の人にはなぜ電子ジャーナルが普及しないのか気になりました。気質でしょうか。

一般論として、電子ジャーナルが普及するには、a) 論文の流通が迅速であること、b) 論文が大量に出版されることの2つが要件となってきますが、人文社会系の分野ではモノグラフ(Monograph)と呼ばれる書籍形態での論文集出版が主体なこともあります。学術雑誌の電子化がさほど進んでいない影響と呼ばれています。

質問・要望へのお返事 (5)

- ・ 国内における学術的なデジタルドキュメントの普及が英語圏よりも遅れているのはなぜですか？
- ・ 国内の学術雑誌の電子化が遅れている原因はなんでしょうか。

スケールの問題、経済性の理由が大きいようです。英語圏の学術雑誌の場合は、電子化により恩恵を受ける層が広く、電子化するコストを回収できますが、国内だけではそのコスト回収が難しくなる課題があるようです。あわせて、使いやすい電子ジャーナルプラットフォームが存在しないのもネックになっているようです。

質問・要望へのお返事 (6)

- ・オンラインであることはデジタルドキュメントの絶対条件なのでしょうか。かつてはCD等に焼いていたと聞きますが、それらはデジタルドキュメントと呼べるのでしょうか。

オンラインで提供されることは、電子ジャーナル/デジタルドキュメントの条件ではありません。CD等のパッケージ型で提供される学術文献もデジタルドキュメントの特徴を持っています。

質問・要望へのお返事(7)

- スライド27ページの左下の赤枠は別といっていたのですが、具体的には何が書かれているのですか。

脚注形式(footnote)にて
著者情報(所属, 連絡先等)
が掲載されています。

recovered by two methods. In one method, we used a Teflon spatula to sweep particles from about 10% of the surface of a sample catcher. In the other method, we gently tapped on the exterior of the sample catcher, causing particles to drop onto a pure silica glass slide (6).

¹Department of Earth and Planetary Material Sciences, Faculty of Science, Tohoku University, Aoba, Sendai, Miyagi 980-8578, Japan. ²College of Science, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo, Mito, Ibaraki 310-8512, Japan. ³Synchrotron X-ray Station at Spring-8, National Institute for Materials Science, Sayo, Hyogo 679-5198, Japan. ⁴ARES, NASA Johnson Space Center, Houston, TX 77058, USA. ⁵Department of Earth and Space Science, Graduate School of Science, Osaka University, Toyonaka 560-0043, Japan. ⁶JAXA-ISAS, 3-1-1 Yoshinodai, Sagamihara, Kanagawa 229-8510, Japan. ⁷Department of Earth and Planetary Science, Faculty of Science, Kyushu University, Hakozaki, Fukuoka 812-8581, Japan. ⁸NASA Ames Research Center, Moffett Field, CA 94035, USA.

*To whom correspondence should be addressed. E-mail:
tomoki@m.tohoku.ac.jp

質問・要望へのお返事 (8)

- 「電子ジャーナルの規模・変遷」のスライド中、2004—2005年間のみ減少している。他の年に関しては常に増加しているにもかかわらず、この年のみ減少したのはなぜだろう？あるいは、2003—2004年の間の増加具合が明らかに他の年と異なっていることの要因は？

Ulrich社による集計誤りの可能性が高いと思われます。この調査データを用いた集計を行った加藤も、「年によって出版タイトル数の精度にばらつきが見られる」と述べている。

Ref: 加藤信哉. 電子ジャーナルの出版・契約・利用統計. カレントアウェアネス, 2003, No.278.

<http://current.ndl.go.jp/ca1512>

質問・要望へのお返事 (9)

- 電子ジャーナルの内、デジタルドキュメントならではの付録資料を用いたものは、全体の何割ぐらいを占めるのでしょうか。

広範な調査結果は見当たりませんので不明です。雑誌毎の編集方針または分野により、大きく違うようです。また、付録資料も査読に付す方針がある場合、大きな手間・労力がかかるため、不必要に付録を増やさない方針を立てているジャーナルもあります。また、研究の生データを共有するサービスも増え始めているため、付録ではなく、別プラットフォームに展開する場合も出始めているようです。

Ref: Figshare. <http://figshare.com>

質問・要望へのお返事 (10)

- 参照文献を記載する際、多くの人が知っているような事象であっても参照文献を書くべきなのでしょうか。参照文献を書くべき時の線引き等があれば教えて頂ければと思います。

主張と読者によります。学術論文における参照文献の役割は「巨人の肩」に乗っていることを示すものであり、あなたの書いた内容が他者により担保されていることを示すためのものです。その主張に関連深い文献であり、その主張を裏付けるものであれば記載しなければなりません。

質問・要望へのお返事 (10)

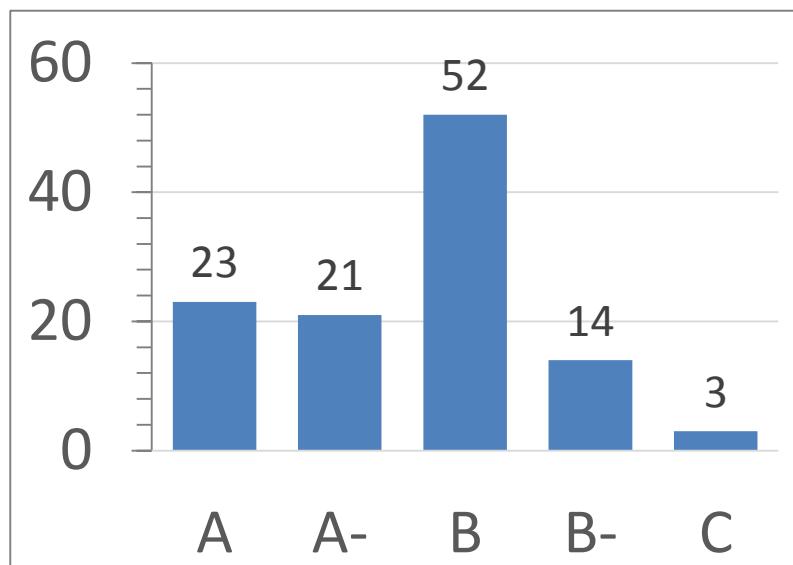
- 電子ジャーナルについてお話を頂きましたが、将来、電子ジャーナルの影響によって『新聞』という文化がなくなる可能性はあると思いますか。

「新聞」文化と「電子ジャーナル」は、社会的にも、技術的にも全く異なるものです。

広い意味でのジャーナリズムそのものが消えることはないでしょう。紙の新聞をみんなが読むという文化は消えることは多々あると思うのですが。

第1回レポート課題(再掲)

- デジタルドキュメントとはどのようなものか、具体例を挙げて説明してください。
- その際、文献(書籍または論文等)を一つ以上参考文献としてあげること。



評定結果の分布

第1回レポート課題・講評(1)

- 最低限の要件を満たすように
 - レポートの最上部への記載情報
 - 課題番号・課題名、提出日(年月日)、学籍番号、所属、氏名
 - 参考文献の記述
 - 誰が読んでも紛れなく、その文献を同定し、入手するためのもの
 - (読む価値があるかどうか一定の判断ができること)
 - タイトルしか記載のないモノ
 - 掲載雑誌名、巻号・ページ、出版年、出版社等の記載のないモノ
 - ウェブ上の情報源でURLの記載のないモノ
 - ※参照: SIST-02 : <http://sti.jst.go.jp/sist/>
- A4・1ページ分量の大半を満たさないモノは減点

第1回レポート課題・講評 (2)

- デジタルドキュメントの具体例を挙げること
 - 「村上春樹の『○×△』^[1]という作品では、――」
 - 「具体例として電子書籍では、――」との記述
 - 個別の具体的なタイトルを列挙できるようでないと、何を指しているか不明。
- システム、サービスとドキュメントの関係性
 - CiNii, Amazon Kindle, Google Scholar, Gmailなどのサービスシステムはデジタルドキュメントか？
 - Wikipediaは？ Twitterは？

第1回レポート課題・講評(3)

- デジタルドキュメントとは?
 - 電子書籍
 - 電子出版
 - デジタル文書管理; 情報処理学会: デジタルドキュメント研究会[sigdd]
 - ドキュメンテーション運動以来の議論、概念([Buckland97, Buckland99][Lund09])
- 具体例(タイトルレベル)を挙げる
 - 「具体例として、『〇〇〇』^[1]という作品をあげる。この作品は△△という形態で提供されており、デジタル形式、かつ、オンラインで提供されている。デジタル形式の特長を活かして、□□の要素があることが特筆される。この作品の対象は...であり、閲覧環境は...」

第1回レポート課題・講評(参照文献)

- [sigdd] 情報処理学会 デジタルドキュメント研究会 (SigDD).
<http://sigdd.sakura.ne.jp/>
- [Buckland97] Michael Buckland: “What is a document?”. Journal of the American Society for Information Science, 1997, Vol.48, No.9, p.804-809
 - [http://dx.doi.org/10.1002/\(SICI\)1097-4571\(199709\)48:9<804::AID-ASI5>3.0.CO;2-V](http://dx.doi.org/10.1002/(SICI)1097-4571(199709)48:9<804::AID-ASI5>3.0.CO;2-V)
- [Buckland99] Michael Buckland: “The landscape of information science: The American Society for Information Science at 62”. Journal of the American Society for Information Science, 1999, Vol.51, No.11, p.970-974
 - [http://dx.doi.org/10.1002/\(SICI\)1097-4571\(1999\)50:11<970::AID-ASI3>3.0.CO;2-D](http://dx.doi.org/10.1002/(SICI)1097-4571(1999)50:11<970::AID-ASI3>3.0.CO;2-D)
- [Lund09] Niels Windfeld Lund: Document theory. Annual Review of Information Science and Technology. 2009, Vol.43, No.1, p.1–55
 - <http://dx.doi.org/10.1002/aris.2009.1440430116>

(余談) 学問分野・領域の名前

- Library science
 - 図書館学
- Information science; documentation
 - 図書館情報学; ドキュメンテーション
- Computer science
 - 計算機科学; 情報学; 情報工学
- 国内の学協会・団体
 - 情報処理学会 (学術団体)
 - 電気情報通信学会 (学術団体)
 - 日本図書館情報学会 (学術団体)
 - 情報科学技術協会 (業界団体)
 - 科学技術振興機構 (行政機構; 独立行政法人)

学術分野のデジタルドキュメント (2)

(前回の復習 = ふりかえり)

- 学術分野のデジタルドキュメント
- 文献をベースにしたライフサイクル
 - 着想→実験・調査→分析・考察→執筆→発表
- オンラインジャーナル普及の歴史
 - 月に1回以上使う研究者が9割以上
 - 66.5% (2001) → 92.2% (2011)
- 実例
- 論文の構造、構成要素
 - 書誌情報、章節、図表、参照文献

学術分野における文献提供 環境と利用 (1)

- ・「オンラインジャーナル」「Eジャーナル」
- ・ウェブを通じた提供(ブラウザによる閲覧)
 - ランディングページ(HTML)
 - = 書誌詳細のページ; メタページ; アイテムページ
 - 本文(論文自体) = Fulltext (全文)
 - PDF
 - HTML
 - etc.

学術分野における文献提供 環境と利用 (2)

- オンラインジャーナルを出版する出版社単位で
プラットフォーム(ウェブサイト)を構築
 - 複数の学会や出版社による共用も
 - J-Stage : 科学技術振興機構(JST)
 - 物理系学術誌刊行センター: 日本物理学会, 応用物理学会
 - Scitation : AIP (American Institute of Physics)
 - 投稿、査読、出版システムと連携している場合も
 - 出版までのワークフロー

学術分野における文献提供の環境と利用 (2)

- 例1:『Science』 The American Association for the Advancement of Science (AAAS)
 - ScienceMag.org
- 例2:『Nature』 Nature Publishing Group
 - Nature.com
- 例3:『Journal of American Society for Information Science and Technology』 American Society for Information Science and Technology (ASIS&T)
 - Wiley.com
- 例4:『Information Processing and Management』 Elsevier
 - Sciencedirect.com
- 例5:『Information Retrieval』 Springer
 - Springer.com
- 例6:『Computing Survey』 ACM
 - ACM.org
- 例7:『情報管理』科学技術振興機構 (JST)
 - Jstage.jst.go.jp
- 例8:『社会教育』全日本社会教育連合会
 - つくばリポジトリ – Tulips-R
- 例9:『図書館情報メディア研究』筑波大学図書館情報メディア研究科
 - つくばリポジトリ – Tulips-R
- 例10:『情報の科学と技術』情報科学技術協会
 - CiNii Articles

学術分野における文献提供の環境と利用 (2)

- 例1:『Science』American Association for the Advancement of Science (AAAS)
 - ScienceMag.org
- 例2:『Nature』Nature Publishing Group
 - Nature.com
- 例3:『Journal of American Society for Information Science and Technology』American Society for Information Science and Technology (ASIS&T)
 - Wiley.com
- 例4:『Information Processing and Management』Elsevier
 - Sciencedirect.com
- 例5:『Information Retrieval』Springer
 - Springer.com
- 例6:『Computing Survey』ACM
 - ACM.org
- 例7:『情報管理』科学技術振興機構 (JST)
 - Jstage.jst.go.jp
- 例8:『社会教育』全日本社会教育連合会
 - つくばリポジトリ – Tulips-R
- 例9:『図書館情報メディア研究』筑波大学図書館情報メディア研究科
 - つくばリポジトリ – Tulips-R
- 例10:『情報の科学と技術』情報科学技術協会
 - CiNii Articles

オンラインジャーナルプラットフォーム の差異

- ・ どのようなフォーマットで提供されているか？
- ・ プラットフォームは誰が運営しているか？
 - 論文の出版/刊行の主体と異なるか？
- ・ どのようなフローで作られているか？
 - 電子化は誰が担当しているか？
- ・ どのような機能があるか？

例 1

Tomoki Nakamura, Takaaki Noguchi, Masahiko Tanaka, et al.:
“Itokawa Dust Particles: A Direct Link Between S-Type
Asteroids and Ordinary Chondrites”. *Science*, Vol.333,
No.6046, 2011, p.1113-1116.

REPORTS

grains. The remaining 447 particles are polymimetic mixtures, mainly silicates. Several other particles are silica minerals and K-bearing halite, all of uncertain origin.

Of the 40 particles removed by tapping (diameters ranging from 30 to 180 μm) that were analyzed by x-ray computed microtomography (7) and x-ray diffraction, 38 were subjected to more detailed mineralogic analysis. Backscattered electron images of selected particles are shown in Fig. 1, A to D. RA-QD02-0030 (Fig. 1A) and RA-QD02-0024 (Fig. 1B) have a platy morphology, are polymineralic, and have many mineral grains 1 to 10 μm in diameter adhering to their surfaces. Their appearance is typical of most Itokawa particles. Two particles show different morphologies. RA-QD02-0013 (Fig. 1C) has a smoother soccer-ball shape, whereas RA-QD02-0027 (Fig. 1D) consists of a large troilite crystal and smaller silicates. Particles that contain troilite or taenite as major components like RA-QD02-0027 are rare.

Mineralogical analysis of individual "tapped" particles indicates that they consist mainly of coarse [typically 10 to 50 µm in diameter (7)] crystalline silicates, the most abundant being olivine. The next most abundant minerals are low- and high-Ca pyroxene and plagioclase (fig. 5A). Low-Ca pyroxene is exclusively composed of orthopyroxene; except for RA-QD02-0060, which is dominated by low-Ca clinopyroxene (monoclinic structure was confirmed by x-ray diffraction). The degree of crystallinity of silicates differs between and within particles, particularly for plagioclase. Some particles contain chromite, chlorapatite, merrillite, and troilite up to 25 µm in size. Small inclusions (up to 10 µm) of feldspar, magnetite, talc, and



Itokawa Dust Particles: A Direct Link Between S-Type Asteroids and Ordinary Chondrites

Tomoki Nakamura,^{1,*} Taakaaki Noguchi,² Masahiko Tanaka,³ Michael A. Zolensky,⁴ Makoto Kimura,² Akira Tsuchiyama,⁵ Aiko Nakato,³ Toshihiro Ogami,³ Hatsumi Ishida,¹ Masayuki Uesugi,⁵ Toru Yada,⁵ Kei Shirai,⁶ Akio Fujimura,⁶ Ryuji Okazaki,⁷ Scott A. Sandford,⁸ Yukihiro Ishibashi,⁶ Masanori Abe,⁶ Tatsushi Okada,⁶ Munetaka Ueno,⁶ Toshifumi Mukai,⁶ Makoto Yoshiwakai,⁶ Junichiro Kawaguchi⁹

The Hayabusa spacecraft successfully recovered dust particles from the surface of near-Earth asteroid 2514 Itokawa. Synchrotron-radiation x-ray diffraction and transmission and scanning electron microscope analyses indicate that the mineralogy and mineral chemistry of the Itokawa dust particles are identical to those of thermally metamorphosed LL chondrites, consistent with spectroscopic observations made from Earth and the Hayabusa spacecraft. Our results directly demonstrate that ordinary chondrites, the most abundant meteorites found on Earth, come from S-type asteroids. Mineral chemistry indicates that the majority of regolith surface particles suffered long-term thermal annealing and subsequent impact shock, suggesting that Itokawa is an asteroid made of reassembled pieces of the interior portions of a once larger asteroid.

The Hayabusa spacecraft arrived at S(IVB) type asteroid 25143 Itokawa (former 1998 SF36) in September 2005 (1). Remote-sensing measurements from the spacecraft suggest that Itokawa consists of rocks similar to LL5 and LL6 ordinary chondrites (2, 3), confirming ground-based spectral characterization (4). On 20 and 26 November 2005, the spacecraft descended to touchdown and capture dust particles from MUSES-C Regio. This area consists of dust and gravel deposits dominated by grains up to 1 cm in diameter (5). Although the sampler did not operate planned, an elastic sampling horn impacted onto the asteroid surface, directing dust particles into the spacecraft's sample catcher device (5). The Hayabusa sample capsule successfully landed in the Woomera Prohibited Area in South Australia on 13 June 2010. Dust particles collected at the second touchdown were recovered by two methods. In one method, we used a Teflon spatula to sweep particles from about 10% of the surface of a sample catcher. In the other method, we gently tapped on the exterior of the sample catcher, causing particles to drop onto a pure silica glass slide (6).

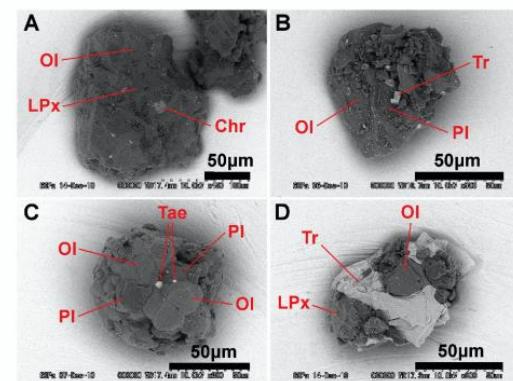


Fig. 1. (A to D) Backscattered electron (BSE) images of RA-QD02-0030 (A), RA-QD02-0024 (B), RA-QD02-0013 (C), and RA-QD02-0027 (D).

<http://dx.doi.org/10.1126/science.1207758>

Of the 40 particles removed by tapping (diameters ranging from 30 to 180 μm) that were analyzed by x-ray scattering, 33 had a radius (R) of less than 90 μm . The mean radius was 45 μm .

Postdoctoral F
Positions at UI

例2

Reka Albert, Hawoong Jeong, Albert-Laszlo Barabasi:
“Internet: Diameter of the World-Wide Web”. *Nature*,
Vol.401, p.1113-1116.

nature.com > Publications A-Z index > Browse by subject

We're throwing a PC Party during Phusion Fest.

The Pathogenetic and Presentation of Alzheimer's Disease in Pre-symptomatic and Early Symptomatic and Late Stages

Deadline: Aug 31 2013 Reward: \$100,000 USD

Full text access provided to University of Tsukuba Library by Library!

My account

Subscribe

Search Advanced search

Journal home > Archive > Brief Communications > Full Text

nature

International weekly journal of science

Brief Communications

Nature 401, 130–131 (9 September 1999) | doi:10.1038/43601

Internet: Diameter of the World-Wide Web

Réka Albert¹, Hawoong Jeong¹ & Albert-László Barabási¹

Despite its increasing role in communication, the World-Wide Web remains uncontrollable: any individual or institution can create a website with any number of documents and links. This unregulated growth leads to a huge and complex web, which becomes a large directed graph whose vertices are documents and whose edges are links (URLs) that point from one document to another. The topology of this graph determines the web's connectivity and consequently how effectively we can locate information on it. But its enormous size (estimated to be at least 8×10^8 documents¹) and the continual changing of documents and links make it impossible to catalogue all the vertices and edges.

The extent of the challenge in obtaining a complete topological map of the web is illustrated by the limitations of the commercial search engines: Northern Light, the search engine with the largest coverage, is estimated to index only 38% of the web¹. Although much work has been done to map and characterize the Internet's infrastructure², little is known about what really matters in the search for information — the topology of the web. Here we take a step towards filling this gap: we have used local connectivity measurements to construct a topological model of the World-Wide Web, which has enabled us to explore and characterize its large-scale properties.

To determine the local connectivity of the web, we constructed a robot that adds to its database all URLs found on a document and recursively follows these to retrieve the related documents and URLs. We used the data collected to determine the probabilities $P_{out}(k)$ and $P_{in}(k)$ that a document has k outgoing and incoming links, respectively. We find that both $P_{out}(k)$ and $P_{in}(k)$ follow a power law over several orders of magnitude, remarkably different not only from the Poisson distribution predicted by the classical theory of random graphs^{3,4}, but also from the bounded distribution found in models of random networks⁵.

The power-law tail indicates that the probability of finding documents with a large number of links is significant, as the network connectivity is dominated by highly connected web pages. Similarly, for incoming links, the probability of finding very popular addresses, to which a large number of other documents point, is non-negligible, an indication of the flocking nature of the web. Furthermore, while the owner of each web page has complete freedom in choosing the number of links on a document and the addresses to which they point, the overall system obeys scaling laws characteristic only of highly interactive self-organized systems and critical phenomena⁶.

To investigate the connectivity and the large-scale topological properties of the

subscribe to nature

FULL TEXT

+ Previous | Next +

+ Table of contents

Download PDF

View interactive PDF in ReadCube

Send to a friend

CrossRef lists 940 articles citing this article

Scopus lists 1682 articles citing this article

Export citation

Export references

Rights and permissions

Order commercial reprint

Abstract

References

Figures and tables

SEARCH PUBMED FOR

Réka Albert

Hawoong Jeong

Albert-László Barabási

open innovation challenge

NEW: AWARDS For Uploading Your Compound Libraries!

Deadline: Jan 31 2014

Figure 1: Distribution of links on the World-Wide Web. **a**, Outgoing links (URLs found on an HTML document); **b**, incoming links (URLs pointing to a certain HTML document). Data were obtained from the complete map of the nd.edu domain. **c**, Average of the shortest path between two documents as a function of system size, as predicted by the model. To check the validity of our predictions, we determined d for documents in the domain nd.edu. The measured $\langle d_{nd.edu} \rangle = 11.2$ agrees well with the prediction $\langle d_{10^{10}} \rangle = 11.6$ obtained from our model. To show that the power-law tail of $P(k)$ is a universal feature of the web, the inset shows $P(k)$ obtained by starting from whitehouse.gov (squares), yahoo.com (triangles) and smu.ac.kr (inverted triangles). The slope of the dashed line is $\gamma_{nd.edu} = 2.45$, as obtained from nd.edu in **a**.

incoming links, the probability of finding very popular addresses, to which a large number of other documents point, is non-negligible, an indication of the flocking nature of the web. Furthermore, while the owner of each web page has complete freedom in choosing the number of links on a document and the addresses to which they point, the overall system obeys scaling laws characteristic only of highly interactive self-organized systems and critical phenomena⁶.

To investigate the connectivity and the large-scale topological properties of the

5. Reboud, X. & Zeyl, C. *Heredity* **72**, 132–140 (1994).

6. McCauley, D. E. *Trends Ecol. Evol.* **10**, 198–202 (1995).

7. Hamilton, M. B. *Mol. Ecol.* **8**, 521–522 (1999).

8. Taberlet, P. *et al.* *Plant Mol. Biol.* **17**, 1105–1109 (1991).

9. Weir, B. S. *Genetic Data Analysis II* (Sinauer, Sunderland, Massachusetts, 1996).

10. Rand, D. M. *Conserv. Biol.* **10**, 665–671 (1996).

$k_i + 1$ outgoing (or incoming) links is less than $N P_{out}(k_i + 1)$ (or $N P_{in}(k_i + 1)$).

A particularly important quantity in a search process is the shortest path between two documents, d , defined as the smallest number of URL links that must be followed to navigate from one document to the other. We find that the average of d over all pairs of vertices is $\langle d \rangle = 0.35 + 2.0 \log(N)$ (Fig. 1c), indicating that the web forms a small-world network^{5,7}, which characterizes social or biological systems. For $N = 8 \times 10^8$, $\langle d_{nd.edu} \rangle = 18.59$; that is, two randomly chosen documents on the web are on average 19 clicks away from each other.

For a given N , d follows a gaussian distribution so $\langle d \rangle$ can be interpreted as the diameter of the web, a measure of the shortest distance between any two points in the system. Despite its huge size, our results indicate that the web is a highly connected graph with an average diameter of only 19 links. The logarithmic dependence of $\langle d \rangle$ on N is important to the future potential of the web: we find that the expected 1,000% increase in the size of the web over the next few years will change $\langle d \rangle$ very little, from 19 to only 21.

The relatively small value of $\langle d \rangle$ indicates that an intelligent agent, who can interpret the links and follow only the relevant one, can find the desired information quickly by navigating the web. But this is not the case for a robot that locates the information based on matching strings. We find that such a robot, aiming to identify a document at distance $\langle d \rangle$, needs to search $M(\langle d \rangle) \approx 0.53 \times N^{0.92}$ documents, which, with $N = 8 \times 10^8$, leads to $M = 8 \times 10^7$, or 10% of the whole web. This indicates that robots cannot benefit from the highly connected nature of the web, their only successful strategy being to index as much of the web as possible.

The scale-free nature of the link distributions indicates that collective phenomena play a previously unsuspected role in the development of the web⁸, forcing us to look beyond the traditional random graph models^{3,5,7}. A better understanding of the web's topology, aided by modelling efforts, is crucial in developing search algorithms or designing strategies for making information widely accessible on the World-Wide Web. Fortunately, the surprisingly small diameter of the web means that all that information is just a few clicks away.

Réka Albert, Hawoong Jeong,
Albert-László Barabási
Department of Physics, University of Notre Dame, Notre Dame, IN 46556, USA

例3

Natsuo Onodera, Mariko Iwasawa, Nobuyuki Midorikawa, et al.: “A method for eliminating articles by homonymous authors from the large number of articles retrieved by author search”. Journal of the American Society for Information Science and Technology, 2011, Vol.62, No.4, p.677-690

The screenshot shows the Wiley Online Library interface. At the top, there's a banner for 'Job Network' with the text 'We made it easy. Now we make job hunting easy.' and a 'REGISTER TODAY' button. Below the banner, the Wiley logo and 'ONLINE LIBRARY' are visible. The main navigation menu includes 'PUBLICATIONS', 'BROWSE BY SUBJECT', 'RESOURCES', and 'ABOUT US'. Under 'PUBLICATIONS', 'Computer Science' is selected. The specific article page for 'Journal of the American Society for Information Science and Technology' is displayed. The article title is 'A method for eliminating articles by homonymous authors from the large number of articles retrieved by author search'. The authors listed are Natsuo Onodera¹, Mariko Iwasawa¹, Nobuyuki Midorikawa¹, Fuyuki Yoshikane¹, Kou Amano², Yutaka Ootani³, Tadashi Kodama⁴, Yasuhiko Kiyama⁴, Hiroyuki Tsunoda⁵, Shizuka Yamazaki⁵. The article was first published online on 9 FEB 2011, with DOI: 10.1002/asi.21491. The journal is Volume 62, Issue 4, pages 677–690, April 2011. The page also includes links for 'SEARCH', 'ARTICLE TOOLS', and 'SHARE'.

A Method for Eliminating Articles by Homonymous Authors From the Large Number of Articles Retrieved by Author Search

Natsuo Onodera, Mariko Iwasawa, Nobuyuki Midorikawa, and Fuyuki Yoshikane
Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba, 1-2, Kasuga, Tsukuba, Ibaraki 305-8550, Japan. E-mail: {onodera, miwasawa, midorika, fuyuki}@slis.tsukuba.ac.jp

Kou Amano
Bioresource Information Division, RIKEN BioResource Center, 3-1-1, Koyadai, Tsukuba, Ibaraki 305-0074, Japan. E-mail: amano@brc.riken.jp

Yutaka Ootani and Tadashi Kodama
Toho University Medical Media Center, 5-21-16, Omori-Nishi, Ota-ku, Tokyo 143-8540, Japan.
E-mail: {y-ootani, kodamat}@mnc.toho-u.ac.jp

Yasuhiko Kiyama
Juntendo University Library, 2-2-26, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan.
E-mail: kiyama@juntendo.ac.jp

Hiroyuki Tsunoda
Department of Culture and Language, Shokei University, 6-5-1, Nirenoki, Kumamoto 861-8538, Japan.
E-mail: tsunoda@shokei-gakuen.ac.jp

Shizuka Yamazaki
International Medical Information Center, 35, Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0016, Japan.
E-mail: yshizu@plum.ocn.ne.jp

This paper proposes a methodology which discriminates the articles by the target authors (“true” articles) from those by other homonymous authors (“false” articles). Author name searches for 2,595 “source” authors in six subject fields retrieved about 629,000 articles. In order to extract true articles from the large amount of the retrieved articles, including many false ones, two filtering stages were applied. At the first stage any retrieved article was eliminated as false if either its affiliation addresses had little similarity to those of its source article or there was no citation relationship between the journal of the retrieved article and that of its source article. At the second stage, a sample of retrieved articles was subjected to manual judgment and utilizing the judgment results, discrimination functions based on logistic regression were defined. These discrimination functions demonstrated both the recall ratio and the precision of about 95% and the accuracy (correct answer ratio) of 90–95%. Existence of common coauthor(s), address similarity, title words similarity, and interjournal citation relationships between the retrieved and source articles were found to be the effective discrimination predictors. Whether or not the source author was from a specific country was also one of the important predictors. Furthermore, it was shown that a retrieved article is almost certainly true if it was cited by, or cocited with, its source article. The method proposed in this study would be effective when dealing with a large number of articles whose subject fields and affiliation addresses vary widely.

<http://dx.doi.org/10.1002/asi.21491>

例4

Kisaburo Nakazawa, Hiroshi Nakamura, Taisuke Boku, Ikuo Nakata, Yoshiyuki Yamashita: “CP-PACS: A massively parallel processor at the University of Tsukuba”. *Parallel Computing*, 1999, Vol.25, No.13, p.1635-1666

The screenshot shows the ScienceDirect homepage with the article details for "CP-PACS: A massively parallel processor at the University of Tsukuba". The page includes the SciVerse logo, a search bar, and navigation links like Home, Publications, and Help. The main content area displays the journal title "Parallel Computing", volume information, and the article abstract.

Abstract

CP-PACS: A massively parallel processor at the University of Tsukuba

Kisaburo Nakazawa^{a,*}, Hiroshi Nakamura^b, Taisuke Boku^c, Ikuo Nakata^d, Yoshiyuki Yamashita^c

^a Department of Electronics and Computer Science, Meisei University, 2-590 Nagafuchi, Ohme, Tokyo 198-8655, Japan

^b Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo, 4-6-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-8904, Japan

^c Institute of Information Sciences and Electronics, University of Tsukuba, 1-1-1 Tennohdai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan

^d University of Library and Information Science, 1-2 Kasuga, Tsukuba, Ibaraki 305-8550, Japan

[http://dx.doi.org.ezproxy.tulips.tsukuba.ac.jp/10.1016/S0167-8191\(99\)00078-2](http://dx.doi.org.ezproxy.tulips.tsukuba.ac.jp/10.1016/S0167-8191(99)00078-2)



ELSEVIER

Parallel Computing 25 (1999) 1635–1661

www.elsevier.com/locate/parco

CP-PACS: A massively parallel processor at the University of Tsukuba

Kisaburo Nakazawa^{a,*}, Hiroshi Nakamura^b, Taisuke Boku^c, Ikuo Nakata^d, Yoshiyuki Yamashita^c

^a Department of Electronics and Computer Science, Meisei University, 2-590 Nagafuchi, Ohme, Tokyo 198-8655, Japan

^b Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo, 4-6-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-8904, Japan

^c Institute of Information Sciences and Electronics, University of Tsukuba, 1-1-1 Tennohdai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan

^d University of Library and Information Science, 1-2 Kasuga, Tsukuba, Ibaraki 305-8550, Japan

Received 2 October 1998; received in revised form 16 December 1998

Abstract

Computational Physics by Parallel Array Computer System (CP-PACS) is a massively parallel processor developed and in full operation at the Center for Computational Physics at the University of Tsukuba. It is an MIMD machine with a distributed memory, equipped with 2048 processing units and 128 GB of main memory. The theoretical peak performance of CP-PACS is 614.4 Gflops. CP-PACS achieved 368.2 Gflops with the Linpack benchmark in 1996, which at that time was the fastest Gflops rating in the world.

CP-PACS has two remarkable features. Pseudo Vector Processing feature (PVP-SW) on each node processor, which can perform high speed vector processing on a single chip superscalar microprocessor; and a 3-dimensional Hyper-Crossbar (3-D HXB) Interconnection network, which provides high speed and flexible communication among node processors.

In this article, we present the overview of CP-PACS, the architectural topics, some details of hardware and support software, and several performance results. © 1999 Elsevier Science B.V. All rights reserved.

Keywords: Massively parallel processor; Distributed memory; Processor architecture; Interconnection network; Benchmark

* Corresponding author.

例5 Omar Alonso: “Implementing crowdsourcing-based relevance experimentation: an industrial perspective”. Information Retrieval, 2013, Vol.16, No.2p.101-120

The screenshot shows the SpringerLink interface for the article. At the top, there's a search bar and navigation links for 'Home' and 'Contact Us'. Below that, two download options are shown: 'Download PDF (669 KB)' and 'View Article'. The main title 'Information Retrieval' is followed by the issue details 'April 2013, Volume 16, Issue 2, pp 101-120'. The article title 'Implementing crowdsourcing-based relevance experimentation: an industrial perspective' is displayed, along with the author's name 'Omar Alonso'. Below the title, there's a summary abstract, a 'Share' section with social media icons, a 'Within this Article' sidebar with a tree-like navigation menu, and an 'Other actions' sidebar with links like 'Export citations', 'Register for Journal Updates', and 'About This Journal'. A thumbnail image of the journal cover is also present.

<http://dx.doi.org/10.1007/s10791-012-9204-1>

Inf Retrieval (2013) 16:101–120
DOI 10.1007/s10791-012-9204-1

CROWD SOURCING

Implementing crowdsourcing-based relevance experimentation: an industrial perspective

Omar Alonso

Received: 16 May 2011 / Accepted: 21 June 2012 / Published online: 20 July 2012
© Springer Science+Business Media, LLC 2012

Abstract Crowdsourcing has emerged as a viable platform for conducting different types of relevance evaluation. The main reason behind this trend is that it makes possible to conduct experiments extremely fast, with good results at a low cost. However, like in any experiment, there are several implementation details that would make an experiment work or fail. To gather useful results, clear instructions, user interface guidelines, content quality, inter-rater agreement metrics, work quality, and worker feedback are important characteristics of a successful crowdsourcing experiment. Furthermore, designing and implementing experiments that require thousands or millions of labels is different than conducting small scale research investigations. In this paper we outline a framework for conducting continuous crowdsourcing experiments, emphasizing aspects that should be of importance for all sorts of tasks. We illustrate the value of characteristics that can impact the overall outcome using examples based on TREC, INEX, and Wikipedia data sets.

Keywords Relevance assessment & evaluation · Crowdsourcing · Experiment design · Methodology

1 Introduction

Crowdsourcing has been used for a wide range of applications, from relevance evaluation (Alonso and Mizzaro 2012), machine learning (Alonso et al. 2009) and natural language processing (Snow et al. 2008), just to mention a few. The cost of running experiments in conjunction with the flexibility of the editorial approach at a larger scale, makes this approach very attractive for quickly testing new ideas. It is also possible to introduce experimentation early in the system development cycle.

Now that crowdsourcing is being adopted by industry and academia, people are noticing that its deployment in practice is not that simple. Tasks have to be designed carefully with

About this Article

Title
Implementing crowdsourcing-based relevance experimentation: an industrial perspective

Topics
» Information Storage and Retrieval
» Document Preparation and Text Processing
» Data Mining and Knowledge Discovery

Authors
Omar Alonso (1)
Author Affiliations
1 University of Valencia, Valencia, Spain

例6 Hitoshi Terai, Hitomi Saito, Yuka Egusa, Masao Takaku, Makiko Miwa, Noriko Kando: “Differences between informational and transactional tasks in information seeking on the web”.

Differences between informational and transactional tasks in information seeking on the web

Full Text: [PDF](#)

Authors: Hitoshi Terai Tokyo Denki University, Chiba, Japan
Hitomi Saito Aichi University, Japan
Yuka Egusa National Institute for Educational Policy Research, Tokyo, Japan
Masao Takaku Research Organization of Information and Systems, Tokyo, Japan
Makiko Miwa National Institute of Multimedia Education, Chiba, Japan
Noriko Kando National Institute of Informatics, Tokyo, Japan

Published in:
• Proceeding
[IIIX '08 Proceedings of the second international symposium on Information interaction in context](#)
Pages 152-159
ACM New York, NY, USA ©2008
[table of contents](#) ISBN: 978-1-60558-310-5 doi:>[10.1145/1414694.1414728](https://doi.org/10.1145/1414694.1414728)

Bibliometrics
- Downloads (6 Weeks): 5
- Downloads (12 Months): 68
- Downloads (cumulative): 442
- Citation Count: 6

SIGN IN SIGN UP
Tags: analysis, retrieval, behavior, web sea

Differences between Informational and Transactional Tasks in Information Seeking on the Web

Hitoshi Terai
Tokyo Denki University
2-120 Muzai Gakuen-dai
Inzai-shi, Chiba 207-1382,
Japan
terai@sie.dendai.ac.jp

Masao Takaku
Research Organization of
Information and Systems
2-1-2 Hitotsubashi
Chiyoda-ku, Tokyo 101-8430,
Japan
masao@nii.ac.jp

Hitomi Saito
Aichi University of Education
1 Hirosawa, Igaya-cho
Kariya-shi, Aichi 448-8542,
Japan
hsaito@aeucc.aichi-edu.ac.jp

Makiko Miwa
National Institute of
Multimedia Education
2-12 Wakaba
Mihamachi, Chiba 261-0014,
Japan
miwamaki@nime.ac.jp

Yuka Egusa
National Institute for
Educational Policy Research
3-2-2 Kasumigaseki
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8951,
Japan
yuka@nier.go.jp

Noriko Kando
National Institute of
Informatics
2-1-2 Hitotsubashi
Chiyoda-ku, Tokyo 101-8430,
Japan
kando@nii.ac.jp

ABSTRACT

We examine the influence of task types on information-seeking behaviors on the Web by using screen capture logs and eye-movement data. Eleven participants performed two different types of web search, an informational task and a transactional task, aloud protocols and behaviors were recorded. Analyses of the screen capture logs showed that the task type affected the information-seeking behaviors. In the transactional task, participants visited more web pages than for the informational task, their reading time for each page was shorter than in the informational task. A preliminary analysis of eye-movement data for nine participants revealed characteristics of the scanpaths followed in search result pages as well as the distribution of lookzones for each task.

Categories and Subject Descriptors

H.3.3 [Information Storage and Retrieval]: Information Search and Retrieval

Keywords

information-seeking behavior, task type, eye-movements analysis, user studies, Web search

so on. Understanding the information-seeking behavior of users is critical for service providers and search engine developers. How users search for information on the Web depends on their particular purposes, so it is necessary to consider task characteristics when studying information-seeking behavior on the Web. We chose to capture exploratory search processes which reflect naturally occurring information needs [12].

Prior studies that investigated the relations between characteristics of tasks and information-seeking behavior have used various tasks, such as known-item, subject, fact-finding, and information gathering. These tasks considered to be classified into “navigational” or “informational” categories in Broder’s taxonomy [2]. However, Broder [2] and Keller, Watters, and Shepard [7] suggest that transactional information must occupy a stable fraction of the information needs in Web searches. Therefore, it could be useful to investigate users’ Web searches in tasks to obtain transactional information. In this study, we compare the information-seeking behaviors between an informational task and a transactional task.

Moreover, we analyze information-seeking behaviors by using eye-tracking data as well as the protocol and log data. Eye-tracking data has been used in only a few prior studies. We think it is necessary to refine the methodology by further accumulating research findings. The prior studies using eye-tracking data analyzed the interaction of user and search engine. In contrast, we investigate not only the interaction of user and search engine, but also the interaction of user and the entire Web space encompassing the search for individual Web pages presented in the search results. To achieve such a goal, however, it is necessary to clarify the interaction of user and search engine and the interaction of user and individual Web pages. Therefore, in this study, we first analyze the influence of task characteristics on information-seeking behavior on the Web based on log data. Moreover, as a preliminary analysis of eye-tracking data, we analyze eye-tracking during the browsing of search results pages.

In the rest of the paper, Chapter 2 describes related works

<http://dx.doi.org/10.1145/1414694.1414728>

例7 高久雅生, 谷藤幹子: “材料系研究所における機関リポジトリ NIMS eSciDoc の開発から応用まで: 研究者総覧 SAMURAI と研究ライブラリコレクション”. 情報管理, 2012, Vol.55, No.1, p.29-41

J-STAGE
情報管理 Journal of Information Science and Management
科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

ONLINE ISSN: 1347-1597 PRINT ISSN: 0022-2988 2012年5月2日現在 収録数: 5,621記事

閲覧する 論文投稿する 発行機関について 最新巻号 J-STAGE トップ > 資料トップ > 書誌事項

記事言語: Japanese 前の記事 | 次の記事

DOI: <http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.55.29> JST J-STAGE/johokanri/55.29

材料系研究所における機関リポジトリ NIMS eSciDoc の開発から応用まで 研究者総覧 SAMURAI と研究ライブラリコレクション
高久 雅生¹⁾, 谷藤 幹子¹⁾

1) 独立行政法人物質・材料研究機構 企画部門 科学情報室
公開日 2012/04/01
キーワード: 機関リポジトリ, 研究者総覧, eSciDoc, SAMURAI, 研究ワークフロー

全文HTML 本文PDF [3368K]

抄録 引用文献(35) 被引用文献(2)

物質・材料研究機構 (NIMS) では、2008年よりデジタルライブラリー構想に基づく機関リポジトリ NIMS eSciDoc の開発と運用を始めた。eSciDocは柔軟な拡張可能性と豊富な Web API を併せ持つドイツ製のオープンソースのリポジトリソフトウェアであり、単に文献リポジトリにとどまらず、eサイエンスのための汎用ツールとしての機能を持ち合わせている。このような利点を活かして開発、運用してきた機関リポジトリ NIMS eSciDoc の現状と課題を報告する。あわせて、機関リポジトリと対をなして取り組んでいる研究者総覧 SAMURAI についても報告する。SAMURAI は、NIMS 研究者約 500 人を対象に、その連絡先や業績文献、研究内容などをわかりやすく伝えるサービスとして、機関リポジトリや外部データベースと密に連携しながら、2010 年より運用を開始した。本報告では、これらのサービス内容と利用動向とともに、今後の展開について述べる。

お問い合わせ

この記事を共有

メールで知らせる

高久 雅生¹⁾ | 谷藤 幹子¹⁾
TAKAKU Masao¹⁾; TANIFUJI Mikiko¹⁾

1) 独立行政法人物質・材料研究機構 企画部門 科学情報室 (〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1) Tel:029-859-2813
E-mail: TAKAKU.Masao@nims.go.jp
1 Scientific Information Office, Planning Division, National Institute for Materials Science
(1-2-1 Sengen Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0047)

原稿受理 (2012-02-13)
情報管理 55(1), 029-041, doi:10.1241/johokanri.55.29 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.55.29>)

著者抄録

物質・材料研究機構 (NIMS) では、2008 年よりデジタルライブラリー構想に基づく機関リポジトリ NIMS eSciDoc の開発と運用を始めた。eSciDoc は柔軟な拡張可能性と豊富な Web API を併せ持つドイツ製のオープンソースのリポジトリソフトウェアであり、単に文献リポジトリにとどまらず、e サイエンスのための汎用ツールとしての機能を持ち合わせている。このような利点を活かして開発、運用してきた機関リポジトリ NIMS eSciDoc の現状と課題を報告する。あわせて、機関リポジトリと対をなして取り組んでいる研究者総覧 SAMURAI についても報告する。SAMURAI は、NIMS 研究者約 500 人を対象に、その連絡先や業績文献、研究内容などをわかりやすく伝えるサービスとして、機関リポジトリや外部データベースと密に連携しながら、2010 年より運用を開始した。本報告では、これらのサービス内容と利用動向とともに、今後の展開について述べる。

キーワード

機関リポジトリ, 研究者総覧, eSciDoc, SAMURAI, 研究ワークフロー

における機関リポジトリと情報ベース化と社会公開の歴史は古い。例を挙げると、機関リポジトリ NIMS eSciDoc¹⁾、前身の NIMS 研究データベース²⁾、放射線医学総合研究所の発表論文等データベース³⁾、宇宙航空研究開発機構の JAXA リポジ

<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.55.29>

Copyright © Japan Science and Technology Agency 2012

▲ ページトップへ

情報管理 vol.55 no.1 2012 29

例8

薬袋秀樹: “図書館協議会の可能性—草の根からの図書館振興”. 社会教育. 2012, No.792, p.20-25



検索
検索
詳細検索
ホーム

ブラウズ
コミュニティ & コレクション
発行日
著者
タイトル
主題

つくばリポジトリ (Tulips-R) >
0コンテンツタイプ別 (Content type) >
01雑誌発表論文等 (Journal article, etc.) >
社会教育 (Social education) >

このアイテムの引用には次の識別子を使用してください: <http://hdl.handle.net/2241/117267>

タイトル: 図書館協議会の可能性: 草の根から

著者: 薬袋 秀樹
Minai, Hideki
ミナイ, ヒデキ

発行日: 6月-2012

出版者: 全日本社会教育連合会

誌名: 社会教育

号: 792

開始ページ: 20

終了ページ: 25

URI: <http://hdl.handle.net/2241/117267>

テキストバージョン: publisher

出現コレクション: 薬袋 秀樹 (Minai Hideki)
社会教育 (Social education)

このアイテムのファイル:

ファイル	記述	サイズ	フォーマット
社会教育_792.pdf		672.23 kB	Adobe PDF

<http://hdl.handle.net/2241/117267>

ARTICLE

図書館協議会の可能性

筑波大学図書館情報メディア系教授 薬袋秀樹

はじめに

近年、公立図書館における図書館協議会の活動に関するニュースを聞くことが多い。以前と比べて、図書館協議会の活動は活発化していると言われるが、課題も多い。

図書館協議会の設置の現状については、三年ごとに、文部科学省の「社会教育調査」で県別、地方公共団体の種類別に設置図書館数の調査が行われている。

全国の図書館協議会の詳しい実績については、一九八五年に日本図書館協会(現、二〇一二年に平山陽菜・池内淳(筑波大学図書館情報メディア系)が調査を行っている)、公立図書館の特定事項に関する調査で取り上げられる場合もある。

図書館協議会の現状 可能性 課題について、関係文献と筆者の協議会委員の経験をもとに論じてみたい。

一. 図書館協議会設置の趣旨

(一) 現行図書館法(二〇一年改正)

図書館協議会については、図書館法第一四一―六条で定められている。その任務は、「図書館の運営に関する意見

諮詢に応するとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べることである(一四条)。

図書館法制定時の解説書では、「住民の具体的な図書館に対する要望なり意見なりを、図書館奉仕を実施する責任者とも言うべき館長に対して反映せしめるために置かれる」と書かれている(図)。

図書館協議会の設置は任意で(一四条)、協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する(一五条)。協議会の設置、委員の定数、任期等必要な事項は地方公共団体

二. 草の根からの図書館振興

の条例で定めなければならない(一六条)。

二〇一一年に、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律(平成二三年法律第一〇五号)によって図書館法が改正され、「委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参考するものとする」が付け加えられた(一六条)。

併せて、図書館法施行規則(文部科学省令)が改正され、参考すべき基準として、「学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする」と定められた(二二条)。

(二) 図書館法の改正(つづいて)

が改

第三

例9 柳玄姫, 葉袋秀樹: “韓国の図書館法と社会的背景”. 図書館情報メディア研究, 2013, Vol.10, No.2, p.1-17.

Tulips®
University of Tsukuba Library
つくばリポジトリ

筑波大学
University of Tsukuba

検索

詳細検索

ホーム

ブラウズ

コミュニティ & コレクション

発行日

著者

タイトル

主題

つばりポジトリ (Tulips-R) >
0 コンテンツタイプ別 (Content type) >
05 紀要論文 (Departmental bulletin paper) >
図書館情報メディア研究 >

このアイテムの引用には次の識別子を使用してください: <http://hdl.handle.net/2241/118746>

タイトル: 〈原著論文〉韓国の図書館法と社会的背景
その他のタイトル: 〈Papers〉The Korean Library Laws and their social background
著者: 柳, 玄姫
葉袋, 秀樹
[Ryu, Hyeonsook](#)
[Minai, Hideki](#)
リュウ, ヒョンスク
ミナイ, ヒデキ
[筑波大学図書館情報メディア研究科](#)
[筑波大学図書館情報メディア系](#)
[Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba](#)
[Faculty of Library, Information and Media Science, University of Tsukuba](#)
発行日: 29-3月-2013
出版者: 「図書館情報メディア研究」編集委員会
誌名: 図書館情報メディア研究
巻: 10
号: 2
開始ページ: 1
終了ページ: 17
URI: <http://hdl.handle.net/2241/118746>
フルテキスト: <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/mylimedio/dl/page.do?issueid=1135979&tocid=100102294&>

<http://hdl.handle.net/2241/118746>

このアイテムのファイル:

このアイテムに関連するファイルはありません。

図書館情報メディア研究第10巻2号1~17ページ

2012年

韓国の図書館法と社会的背景

柳 玄姫*, 葉袋 秀樹**

The Korean Library Laws and their social background

Hyeonsook RYU, Hideki MINAI

抄録

韓国では、1963年に図書館法が制定され、1987年に改正されたが、1991年に廃止されて、代わりに図書館振興法が、1994年には図書館・読書振興法が制定され、2006年には、再び図書館法が制定された。1987年の改正図書館法を含めて、5つの法律が存在してきたが、これらの基本的内容が未遂するものであることをから、これらの法律を5つの図書館法ととらえることができる。本研究の目的は、それらがどのような社会的背景のもとで、制定・改正されてきたのかを考察することである。

本研究では、まず、韓国の図書館法の制定や改正の社会的背景について、政治・経済、教育・文化の4つの面から考察した。次に、法律の改正や制定の変遷の内容と特徴を考察し、法律の時代区分を試み、3期に分け、各期の法律の特徴を分析した。そして、図書館法の変遷と社会背景の関係について考察した。

その結果、韓国の図書館法は、政治の民主化、経済の発達、公教育の普及、文化政策の確立などを背景として制定・改正されてきたことが明らかになった。

Abstract

In Korea, the Library Law was adopted in 1963. It has been amended in 1987, but was abolished in 1991. Instead, Library Promotion Law has been enacted as Library and Reading Promotion Law in 1994. In 2006, Library Law has again been adopted. Including the Amended Library Law of 1987, a total of 5 laws have existed. Owing to the mutual contents of these, it is possible to treat them as 5 different Library Laws. The object of this paper is to examine the social background, bringing about their enactments and amendments.

Firstly, this paper examines the social background of Korean Library Laws adoption and amendments from four perspectives: political, economic, educational and cultural. Secondly, it considers the contents and characteristics of amendments and enactment changes. Furthermore, this paper attempts a periodization of the 5 laws, dividing them into 3 terms and analysing their characteristics in every period. Then, the paper examines the relationship between the social background and the changes of the Library Laws.

The main conclusions drawn from this paper argue that democratisation of politics, economic development, prevalence of public education and the policy on culture constitute the background for the adoption and amendments of Korean Library Laws.

* 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科研究生
Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba
** 筑波大学図書館情報メディア系
Faculty of Library, Information and Media Science, University of Tsukuba

例10 大向一輝: “CiNii Articlesのシステムデザインとデータモデル”. 情報の科学と技術, 2012, Vol.62, No.11, p.473-477.

CiNii 日本の論文をさがす 大学図書館の本をさがす 新規登録 ログイン English

論文検索 著者検索 全文検索 (beta) 大学図書館の本をさがす >

▼詳細検索

論文名
著者名
ISSN
出版者

著者所属
卷
参考文献

刊行物名
号
出版年 年から 年まで

すべて CiNiiに本文あり CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり

検索

 CiNii Articlesのシステムデザインとデータモデル(<特集>データベース構築の今)
System design and data modeling of CiNii articles(<Special feature>Database design and construction)

 大向一輝
OHMUKAI Iki

国立情報学研究所
National Institute of Informatics

この論文を読む／探す

 CiNii PDF | CiNii 論文PDF - 定額アクセス可能
 CiNii Books | CiNii Books - 大学図書館でさがす

抄録

学術情報サービスにおいて、コスト面での制約がある中で大量のアクセスを高速に処理するためには、サービスが備えるべき機能を精査し、その機能の実現に適したシステム設計を行う必要があるCiNii Articlesでは月間3500万～5000万のアクセスに対応するため、機能要件を検索と書誌表示に限定し、高速な検索エンジンと単純な処理のみを行うRDBを組み合わせることで性能要件を達成した。また、書誌IDを維持・管理するシステムを構築することで信頼性の高い情報サービスの提供を行っている。

In order to process large amount of access at low cost, it is necessary to design the system considering important functions to be provided. In CiNii Articles, we have achieved the performance requirements by using search engine and simple DBMS. We also provide reliable information service by the bibliographic ID management system.

収録刊行物

 情報の科学と技術 [巻号一覧]
情報の科学と技術 62(11), 473-477, 2012-11-01 [この号の目次]
社団法人情報科学技術協会

Information Science and Technology Association

特集：データベース構築の今

CiNii Articles のシステムデザインとデータモデル

大向 一輝*

学術情報サービスにおいて、コスト面での制約がある中で大量のアクセスを高速に処理するためには、サービスが備えるべき機能を精査し、その機能の実現に適したシステム設計を行う必要がある。CiNii Articles では月間3500万～5000万のアクセスに対応するため、機能要件を検索と書誌表示に限定し、高速な検索エンジンと単純な処理のみを行うRDBを組み合わせることで性能要件を達成した。また、書誌IDを維持・管理するシステムを構築することで信頼性の高い情報サービスの提供を行っている。

キーワード：システムデザイン、検索エンジン、データベース管理システム、ユニーク ID、名寄せ

1.はじめに

人々の情報収集の手段として、ウェブは極めて重要な存在となった。学術情報流通の分野においても、ウェブを通じた情報提供サービスの比重が高まっており、研究者や学生にとってなくてはならないインフラとして認識されつつある。実際、サービスへのアクセス数や論文ファイルのダウンロード数は毎年最高値を記録しており、その勢いが衰える気配はない。その意味で、サービス提供者の責任は日増しに大きくなっている。一方、国内では学術情報サービスは公的機関が多く役割を担っているが、昨今の財政状況の中では、需要が伸びていると言えども、それに応じた予算を投入することが難しくなっている。

このように、限られた資源の中で、増え続けるアクセスにどう対応していくかはサービス提供者が抱える共通の課題である。この課題に応えるためには、サービスの要件を明確にするだけでなく、各種のソフトウェアあるいはハードウェアの特徴や制約を知り、それらを生かしたシステムを設計しなければならない。とくに、学術情報サービスは大規模なデータを取り扱うことから、そのデータの構造や管理手法について熟知しておく必要がある。

本稿では、筆者らが開発・運用を行っている学術情報サービスである「CiNii（サイニイ）」を取り上げ、その設計方針と実装について述べる。2012年9月の時点では、CiNii のサービスには国内の論文情報を提供する「CiNii Articles」と、大学図書館の図書・雑誌の情報を提供する「CiNii Books」という2種類のシステムが併存している。本稿では主に CiNii Articles について述べる。なお、CiNii

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009544496>

このように、ユーザに対しては表示のみを行い、パッチシステムデータルーディング論文情報を登録し、検索や書誌表示といった要求に応じて問い合わせを行い、その結果を表示するようなシステムであればよい。その意味では、CiNii Articles は典型的なデータベースシステムである。

	雑誌名	出版社	プラットフォーム	提供フォーマット	電子化の主体	機能
例1	Science	AAAS	AAAS	PDF, HTML, +α	出版社	◎
例2	Nature	Nature	Nature	PDF, HTML, +α	出版社	◎
例3	JASIS&T	ASIS&T	Wiley	PDF, HTML, +α	Wiley	◎
例4	IPM	Elsevier	Elsevier	PDF, HTML, +α	出版社	◎
例5	IR	Springer	Springer	PDF, HTML, +α	出版社	◎
例6	IIiX	ACM	ACM	PDF, HTML, +α	出版社	◎
例7	情報管理	JST	J-STAGE	PDF, HTML, +α	JST	◎
例8	社会教育	全日本社会教育連合会	つくばリポジトリ	PDF(スキャン)	つくばリポジトリ	△
例9	図書館情報 メディア研究科	筑波大学	つくばリポジトリ	PDF(スキャン)	つくばリポジトリ	△
例10	情報の科学と技術	情報科学技術協会	CiNii	PDF(スキャン)	CiNii	△

学術分野におけるデジタルドキュメント —雑誌論文以外に流通する文献—

- Eブック
 - 専門書
 - 事典
 - レファレンスブック
 - データシート
- 会議論文集(プロシードィングス; Proceedings)
 - 会議論文
- 口頭発表資料
 - スライド
 - ポスター
- 技術報告(テクニカルレポート; Technical report)

Eブックの例

John Domingue, Dieter Fensel, James A. Hendler, Eds. "Handbook of Semantic Web Technologies". Springer, 2011, 1056p.
(eISBN:978-3-540-92913-0)



Search



Sign up for updates

Audiobook edition

Home • Contact Us



Search within this reference work

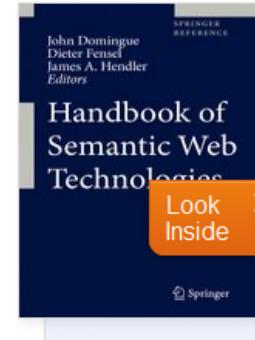


2011

Handbook of Semantic Web Technologies

Editors: John Domingue, Dieter Fensel, James A. Hendler

ISBN: 978-3-540-92912-3 (Print) 978-3-540-92913-0 (Online)



Look Inside >

Table of contents (22 entries)

◀ Page 1 of 2 ▶

Front Matter

» Download PDF (136KB)

Pages i-xx

Share



Foundations and Technologies

Reference Work Entry

Introduction to the Semantic Web Technologies

John Domingue, Dieter Fensel, James A. Hendler

» Download PDF (788KB)

» View Reference Work Entry

Pages 1-41

Other actions

» About this Reference Work

Reference Work Entry

Semantic Web Architecture

Andreas Harth, Maciej Janik, Steffen Staab

» Download PDF (696KB)

» View Reference Work Entry

Pages 43-75

<http://dx.doi.org/10.1007/978-3-540-92913-0>

Eブックの例(事典)

“Encyclopedia of Library and Information Sciences”, Third Edition. Taylor & Francis, 2012. (eISBN:978-0-8493-9711-0)

Taylor & Francis Online Access provided by Tsukuba University

The online platform for Taylor & Francis Group content

Search Advanced Search

Within current reference work Entire site

Home > Reference Works > Encyclopedia of Library and Information Sciences, Third Edition

Browse Reference Work

By Title

By Contributor

By Date

Description

Editor Biographies

Subscribe

Encyclopedia of Library and Information Sciences, Third Edition

DOI: 10.1081/E-ELIS3
ISBN: 978-0-8493-9712-7; eISBN: 978-0-8493-9711-0
Last Updated: 10 Aug 2012

Subject: Information Science, Librarianship,
Publisher: Taylor & Francis

Related Articles

Most read Most cited

There are no chapters to display.

Add to shortlist | Recommend to: A friend | A librarian

By Title By Contributor By Date

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

Choose an action ▾

Academic Librarianship
Barbara B. Moran, Elisabeth Leonard
Published: 9 Dec 2009 | Abstract | References | Open URL

View full text
Download full text
Full access

Academic Libraries
Susan Carol Curzon, Jessie Quiñónez-Skinner

<http://www.tandfonline.com/doi/book/10.1081/E-ELIS3>

会議論文集の例

IEEE computer society

Japan Consortium - Tsukuba University

Home Digital Library Home Search Resources Institutional and Library Resources Newsletter About the Digital Library

> | > ICDE > 2012 > 2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering

> Abstract - Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base

Quick Search This Publication Digital Library Advanced Search

2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering
Arlington, Virginia USA
April 01-April 05
ISBN: 978-0-7695-4747-3

Table of Contents

Papers

- [Front cover] (PDF)
pp. C1
 PDF
- [Title page i] (PDF)
pp. i
 PDF
- [Title page iii] (PDF)
pp. iii
 PDF
- Copyright Page (PDF)
pp. iv
 PDF
- Table of contents (PDF)
pp. v-xii
 PDF
- Message from the Program Chairs and the General Chair (PDF)
pp. xvii-xviii
 PDF
- Conference Organization (PDF)
pp. xix-xxvi
 PDF

ONLINE M.S. IN DATA ANALYTICS
LEARN MORE

OvidLinkServer

The City University of New York (CUNY)

2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering
Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base (PDF)
Arlington, Virginia USA
April 01-April 05
ISBN: 978-0-7695-4747-3
Serge Abiteboul
Emilien Antoine
Julia Stoyanovich
DOI Bookmark: <http://doi.ieeecomputersociety.org/10.1109/ICDE.2012.150>

ABSTRACT

This paper addresses the challenges faced by everyday Web users, who interact with inherently heterogeneous and distributed information. Managing such data is currently beyond the skills of casual users. We describe ongoing work that has as its goal the development of foundations for declarative distributed data management. In this approach, we see the Web as a knowledge base consisting of distributed logical facts and rules. Our objective is to enable automated reasoning over this knowledge base, ultimately improving the quality of service and of data. For this, we use Webdamlog, a Datalog-style language with rule delegation. We outline ongoing efforts on the Web dam Exchange platform that combines Webdamlog evaluation with communication and security protocols.

ADDITIONAL INFO

Citation:
Serge Abiteboul, Emilien Antoine
International Conference on Data Engineering

Usage of this product signifies acceptance of the terms and conditions

<http://www.computer.org/csdl/proceedings/icde/2012/4747/00/index.html>

“Proceedings of the 28th International Conference on Data Engineering”, 2012, Arlington, Virginia USA, IEEE. (ISBN: 978-0-7695-4747-3)

IEEE computer society

Japan Consortium - Tsukuba University

Home Digital Library Home Search Resources Institutional and Library Resources Newsletter About the Digital Library

> | > ICDE > 2012 > 2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering

> Abstract - Viewing the Web as a Distributed Knowledge Base

Quick Search This Publication Digital Library Advanced Search

2012 IEEE 28th International Conference on Data Engineering
Arlington, Virginia USA
April 01-April 05
ISBN: 978-0-7695-4747-3

This Article

- PDF
- RSS feed

Share

- Email this Article to a friend

Bibliographic References

- ASCII Text
- BibTeX
- RefWorks Procite/RefMan/EndNote

Add to:

- Digg Spurl Simpy Del.icio.us
- Furl Blink Google Y!MyWeb

Search

- Similar Articles
- Articles by Serge Abiteboul
- Articles by Emilien Antoine
- Articles by Julia Stoyanovich

<http://www.computer.org/csdl/proceedings/icde/2012/4747/00/4747a001-abs.html>

Cybersecurity.

テクニカルレポートの例

NII Technical Reports

National Institute of Informatics
2-1-2 Hitotsubashi, Chiyoda, Tokyo, 101-8430, Japan
Print ISSN: 1346-5597
Online ISSN: 1884-0795

[Japanese Here](#)

[2001](#) [2002](#) [2003](#) [2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#) [2012](#) [2013](#)

[About NII Technical Reports](#)
[Authors' Page \(Staff Only\)](#)

2013

No.	Authors & Title	Published
NII-2013-001E Kugamoorthy GAJANANAN <i>A Short Tutorial of the Scenario Markup Language</i>		Feb 8, 2013

2012

No.	Authors & Title	Published
NII-2012-005E Keiichi Morikuni and Ken Hayami <i>Convergence of inner-iteration GMRES methods for least squares problems</i>		Aug 3, 2012
NII-2012-004E Michael E. Houle and Michael Nett <i>Rank-Based Similarity Search: Reducing the Dimensional Dependence</i>		Jun 18, 2012
NII-2012-003E Makoto Kanazawa <i>Almost Affine Lambda Terms</i>		May 25, 2012
NII-2012-002E Makoto Tatsuta <i>Formalization of Lemma for Adjacent Replacement Paths</i>		Feb 17, 2012
NII-2012-001E Keiichi Morikuni, Lothar Reichel, Ken Hayami <i>FGMRES for linear discrete ill-posed problems</i>		Jan 12, 2012

2011

No.	Authors & Title	Published
NII-2011-002E Yasunori Aoki, Ken Hayami, Hans De Sterck and Akihiko Konagaya <i>Cluster Newton Method for Sampling Multiple Solutions of an Underdetermined Inverse Problem: Parameter Identification for Pharmacokinetics</i>		Aug 22, 2011
NII-2011-001E Keiichi Morikuni and Ken Hayami <i>Inner-Iteration Krylov Subspace Methods for Least Squares Problems</i>		Apr 04, 2011

2010

No.	Authors & Title	Published
NII-2010-003E Makoto Tatsuta <i>Translation of Multi-Staged Language</i>		Jul 20, 2010
NII-2010-002E Liang Xu, Hideaki Takeda, Masahiro Hamasaki, and Huayu Wu <i>Typing Software Articles with Wikipedia Category Structure</i>		Jul 12, 2010
NII-2010-001E Shaoqing Liu and Shin Nakajima <i>A Decompositional Approach to Automatic Test Case Generation Based on Formal Specifications</i>		Jan 12, 2010

<http://www.nii.ac.jp/TechReports/>

[NII-2009-018E](#) Michael E. Houle, Hans-Peter Kriegel, Peer Kroeger, Erich Schubert and Arthur Zimek
Can Shared-Neighbor Distances Defeat the Curse of Dimensionality?

Dec 24, 2009

[NII-2009-017E](#) Nguyen Xuan Vinh and Michael E. Houle
A Set Correlation Model for Partitional Clustering

Dec 22, 2009

Stanford InfoLab Publication Server



[Home](#) | [Browse by Year](#) | [Browse by Project](#) | [Browse by Author](#) | [Statistics](#) | [Advanced Search](#) | [Help](#) |

[Login](#) | [Create Account](#)

The PageRank Citation Ranking: Bringing Order to the Web.

Page, Lawrence and Brin, Sergey and Motwani, Rajeev and Winograd, Terry (1999) *The PageRank Citation Ranking: Bringing Order to the Web*. Technical Report. Stanford InfoLab.

[BibTeX](#) [DublinCore](#) [EndNote](#) [HTML](#)



PDF
299Kb

Abstract

The importance of a Web page is an inherently subjective matter, which depends on the readers interests, knowledge and attitudes. But there is still much that can be said objectively about the relative importance of Web pages. This paper describes PageRank, a method for rating Web pages objectively and mechanically, effectively measuring the human interest and attention devoted to them. We compare PageRank to an idealized random Web surfer. We show how to efficiently compute PageRank for large numbers of pages. And, we show how to apply PageRank to search and to user navigation.

Item Type: Techreport (Technical Report)

Additional Information: Previous number = SIDL-WP-1999-0120

Subjects: Computer Science > Digital Libraries

Projects: [Digital Libraries](#)

Related URLs: Project Homepage

<http://www-diglib.stanford.edu/diglib/pub/>

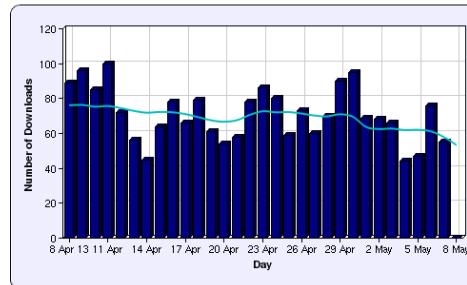
ID Code: 422

Deposited By: Import Account

Deposited On: 30 Oct 2001 16:00

Last Modified: 28 Dec 2008 09:56

Download statistics



<http://ilpubs.stanford.edu:8090/422/>



さて、ここで改めて…

学術分野のドキュメントの場合、デジタルドキュメントならでは特徴とは、一体なんだろうか？

オンラインジャーナルの動向

- オンラインのみの雑誌(E-only)
 - 例1: Dlib Magazine(<http://www.dlib.org/>)
 - 1995年創刊
 - 例2: PLoS One(<http://www.plosone.org/>)
 - 2006年創刊
 - 例3: PeerJ (<https://peerj.com/>)
 - 2013年創刊
- 紙メディアからの離脱
 - △ Issue
 - △ Volume
 - ? ページ
 - ○ Article number

論文の識別・同定

- 紙の時代：
 - 卷号, ページ数
 - (SIST-02)
- デジタル・オンライン時代
 - 卷号, ~~ページ~~, 論文番号 (Article number)
 - URL
 - DOI(Digital Object Identifier)

論文へのリンク / ID

- DOI (Digital Object Identifier)
 - 論文への一意なリンクを生成すると同時に、リンク情報を一元管理して、リンク切れを防ぐために付与される識別子(ID)
- DOIリゾルバ: 識別子→URL対応を解決
<http://dx.doi.org>
- 主にCrossRefによる運用
- 各出版社が、論文毎に識別子を付与し、書誌情報とあわせてリンク情報を登録する仕組み

一つの論文原稿の複数バージョン

- 版と種類 -

- 作成過程、執筆過程による差異
 - 投稿原稿
 - 著者最終稿：改訂原稿
 - (プレプリント)
 - (早期公開版)
 - 出版社刊行版
 - (再利用版：機関リポジトリなど)
- 電子化による差異
 - 紙→スキャン
 - ボーンデジタル

(最近の話題)ジャパンリンクセンター

- ・ 日本国内で運用するDOI付与機関
- ・ 2012年に運用を開始
- ・ 日本で生産される学位論文や研究紀要などへのDOI付与を目的に
- ・ 安価なDOIリンクの実現
- ・ 運営機関
 - 科学技術振興機構(JST)
 - 物質・材料研究機構(NIMS)
 - 国立国会図書館(NDL)
 - 国立情報学研究所(NII)
- ・ 公式サイト: <http://japanlinkcenter.org>

(最近の話題)著者ID

- VIAF (Virtual International Authority File)
 - <http://viaf.org/>
 - 各国のナショナルレベル図書館目録における著者名典拠：主として書籍・報告書が対象
- ORCID (Open Researcher and Contributor ID)
 - <http://orcid.org/>
 - 主要な欧米出版社・学協会が主体のオープンな論文著者IDサービス
- 日本の場合
 - Web NDL Authorities : <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>
 - 科研費番号：研究者リゾルバー：<http://rns.nii.ac.jp/>

オンラインジャーナルの動向 －オープンサイエンス(Open Science)－

- 背景
 - オープンアクセス
 - オープンデータ
- インフォーマルコミュニケーションの補完
- ウェブ上でのコメント、査読機能
- (査読とはどうあるべきか？)
- (科学的であるとはどういうものか？)

オンラインジャーナルのアクセス管理

- 購読者に閲覧を許す仕組み
 - IPアドレス単位による組織単位の認証
 - ユーザ・パスワード方式による個人(組織)認証
- アクセス提供、閲覧利用をライセンスする



As a service to the community, AAAS/Science has made this

User Login

User Name

Password

Remember me

[Forgot your user/password?](#)

SUBMIT

...

[Register for Free](#)

[Join/Subsribe](#)

I want to purchase this article

Price: ¥3300

In order to purchase this article you must be a registered user.

Register now

I want to buy this article via ReadCube

Rent: \$3.99*
Purchase: \$6.99*
*Printing and sharing restrictions apply

Purchase now

I want to subscribe to *Nature*

Price: US\$199

This includes a free subscription to *Nature News* together with *Nature Journal*.

Subscribe now

Personal subscribers to *Nature* can view articles published from 1997 to the

access Online Article

JP-PACS: A massively parallel processor at Tsukuba Original Research Article

Parallel Computing, Volume 25, Issues 13–14, December 1999, Pages 1635–1656
Isamu Nakazawa, Hiroshi Nakamura, Taisuke Boku, Ikuo Nakata, Yoshiyuki Y...

options for accessing this content:

If you have a Username & Password, you may already have access to this article. Please login below.

Username:

Password:

Remember me

Login | **Cancel**

[Forgotten username or password?](#)

Login via your institution

You can purchase online access to this Article for a 24-hour period (price varies by institution).

Athens / Institutional login

If you already have a Wiley Online Library or Wiley InterScience user account, click here to activate it.

Remote access

New Users: Please register, then proceed to purchase the article.

Registered Users please login:

Access your saved publications, articles and searches

Manage your email alerts, orders and subscriptions

Change your contact information, including your password

e-mail:

password:

オンラインジャーナルのアクセス管理

- 著作権管理 -

- オープンになるか？
- 著作権の移譲処理
 - 著作財産権が出版社に移管されることが通常（ライセンスアグリーメント）
 - 販売する権利
 - → 電子化する権利
 - → 配信する権利
- 著者の権利
 - 機関リポジトリ

オンラインジャーナルの保存/保管

- 大半のオンラインジャーナルは学術機関の図書館購読の契約に依存している
- アーカイブ権(いったん購読すれば、その契約期間分のアクセス閲覧は保証される)
- ただし、出版社の手違い、プラットフォームの閉鎖や倒産等により、データが失われることを避けるための仕組み
 - CROCKSS
 - 分散ミラーリング(サイトまるごとをコピーしたものを作成しておく)
 - 平時にはコピーするだけ

学術分野のデジタルドキュメントの 閲覧配信フォーマット

- PDF
- PostScript (PS)
- LaTeX
- HTML
- (XML)
- (ビデオ)

まとめ

- ・ 出版社サイト等における学術文献の事例を基に、オンラインジャーナルプラットフォームがもつ機能、提供形態、フォーマットについて考えてみた
 - 要素と構造
 - メタデータ
 - 出版ワークフローと異フォーマット
 - 識別、同定、ID
 - 長期保存
- ・ 次回は、今回の続きに加え、電子書籍の諸側面を取り上げながら、デジタルドキュメントについてさらに考えてみたいと思います。

第2回レポート課題

- デジタルドキュメントとして提供されている論文を事例として一つ取り上げ、その論文の提供形態、形式、出版プラットフォーム等を具体例に即して説明してください。
 - 取り上げた論文の書誌事項を必ず記載すること。オンラインジャーナルであれば参照先URLは必ず付すこと。
 - なお、対象論文は、講義資料中で紹介した論文以外とする。

第2回レポート課題(提出方法)

- A4用紙1枚にまとめること(書式自由)
 - 2ページにわたる場合は裏面に記載のこと。
- 課題番号(第2回レポート課題)、提出年月日、学籍番号、所属、氏名を提出用紙の一番上に必ず記入すること
- メタ : 2013年5月13日(火) 12:00
 - 提出: 春日エリア学群学務前のレポート提出BOX